

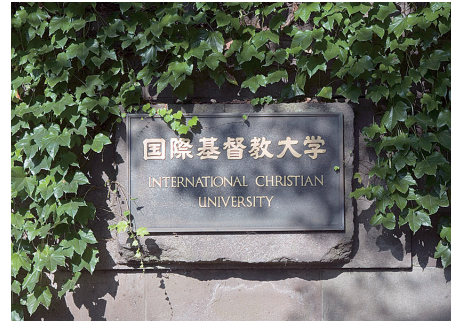
シングルサインオン製品

統合ID管理製品

# OpenAM Unicorn ID Manager 導入事例

## 国際基督教大学 (ICU) 様

### 「OpenAM」と「Unicorn ID Manager」の連携により 学内ポータルや各種サービスの使い勝手が大きく向上



国際基督教大学 (International Christian University 以下、ICU) では、効果的な教育を実践するため、学内ポータルや授業支援システムなど、さまざまなシステムを運用しています。しかし、学内ポータルから利用可能なサービスが増えるにつれて、サービスごとに異なるIDやパスワードが必要になり、ユーザーの利便性を損なうばかりか、管理・運用する側の負担も増大する一方でした。そのため、オープンソース・ソリューション・テクノロジー (以下、OSSTech) の統合ID管理製品「Unicorn ID Manager」とシングルサインオン製品「OpenAM」を併せて導入。利便性の向上と安全性の確保を同時に実現しました。

#### 課題

学内ポータルで提供する各種サービスの多様化に伴いIDとパスワードが乱立

#### 解決

ID統合を実施し、シングルサインオンとID管理の仕組みを構築  
利便性向上と運用負担軽減を実現

#### 緑豊かなキャンパスで少人数制のリベラルアーツ教育を実践

広いキャンパスのあちこちに武蔵野の自然が残るICUは、キリスト教の精神に基づき1953年に献学(「世界平和に献じられた」という意味合いで、いわゆる「開学」のこと)した、国内初の教養学部1学部の大学 (College of Liberal Arts) です。特色であるリベラルアーツ教育は、文系・理系の区別なく幅広い知識を得た後に専門性を深めることで、豊富な知識に裏打ちされた創造的な発想を可能にすることを狙っています。また、同大学では徹底した少人数教育が実施されており、教員一人当たりの学生数はわずか18人。授業は常に教員・学生の双方向で行われ、ディスカッションも盛んです。こうした同大学独自の教育を、ITの側面から支えているのがITセンター 総合学習センター (Integrated Learning Center 以下、ILC) です。

#### 学内ポータルや授業支援システムなどの利便性をさらに高めるために

ILCでは、ICUの学内ポータルやメールシステム、授業支援システムなど、各種システムの管理・運用を行っています。こうしたシステムへアクセスする際の利便性と安全性の両方を確保するため、ILCは2001年にKerberos認証を用いた統合認証システムを導入し、

認証手続きを一元化しました。しかしそれから10年以上がたち、認証サーバーそのものが旧式化してきた上、独自に認証を行うWebシステムも増えてきたため、一人のユーザーが複数のIDとパスワードを使い分ける必要があり、利便性の低下を招いていました。また、アカウントの管理面でも、作成漏れなどミスがないようチェックリストを用意・確認するといった作業が発生し、管理・運用する側の負担も増大していたことから、統合認証システムのリプレースを検討することになりました。

「加えて、ユーザーからシングルサインオンを導入してほしいという要望が高まっていました。というのも、学内ポータルからはいろいろなコンテンツが利用できるのですが、結局その先のシステムは別々なので、ユーザーはそのたびにIDとパスワードを入力しなければなりません。こうした不満を解消するべく、認証システムのリプレースという機会に合わせ、シングルサインオンを導入しようと考えたのです」と、ITセンター 総合学習センターグループ長の小林 智子 氏は導入の背景を語ります。

とはいえ、ユーザーが複数のアカウントを利用していたら、シングルサインオンの導入は困難です。そこでまず導入前のステップとして、ID統合に取り組む必要がありました。



- ・大学名 国際基督教大学 (ICU: International Christian University)
- ・学長 日比谷潤子
- ・開学 1953年4月1日
- ・学部・学科 教養学部 アーツ・サイエンス学科、大学院 アーツ・サイエンス研究科
- ・学生数: 2,841名 (2014年5月1日現在)
- ・教育方針

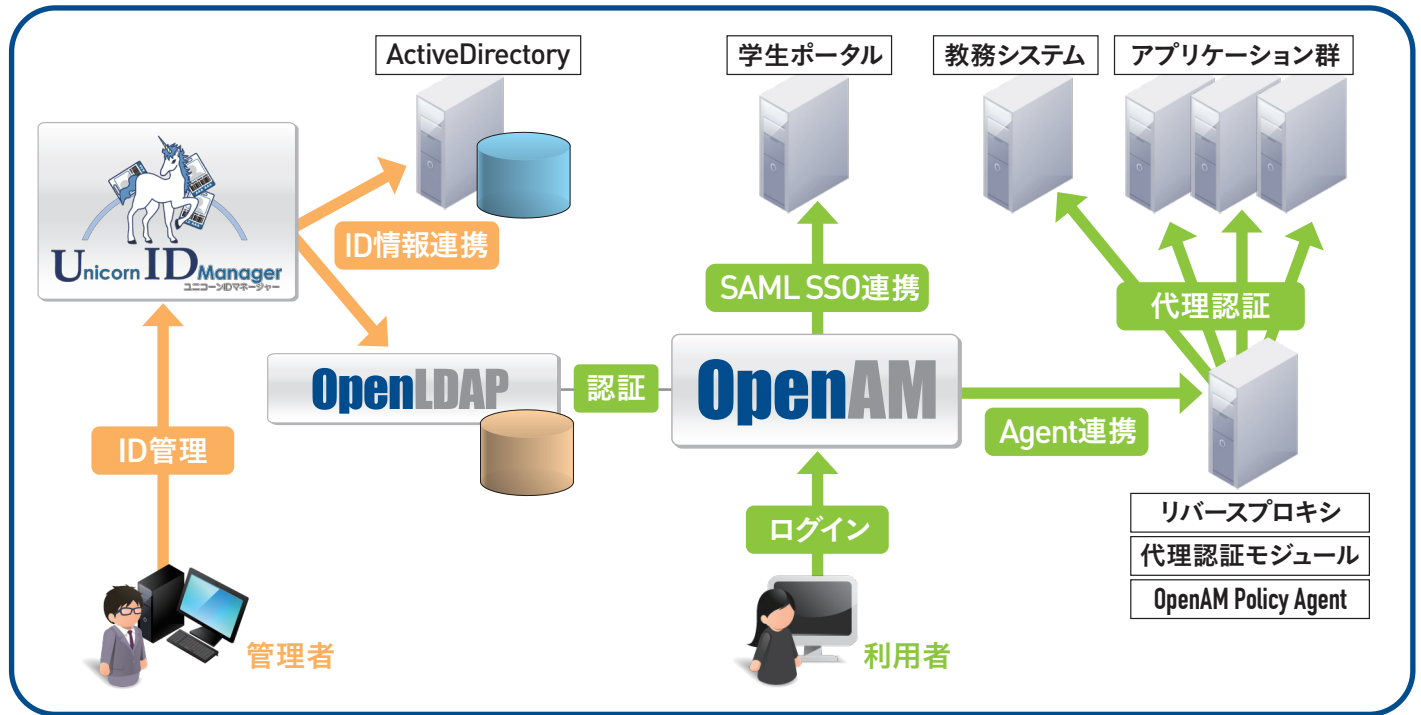
「国際的社會人としての教養をもって、神と人ともに奉仕する有為の人材を養成し、恒久平和の確立に資すること」を目的に、国際性への使命 (I: International)、キリスト教への使命 (C: Christianity)、学問への使命 (U: University) の3つを掲げてきた大学として、その実現に向けてためぬ努力を続けている。

#### お話をうかがった皆さん

ITセンター  
総合学習センターグループ長  
小林 智子 氏

ITセンター  
総合学習センターグループ  
加藤 隆典氏





## 「OpenAM」をはじめとした OSSTech製品の連携により抱えていた課題を一気に解決

ID統合やシングルサインオンの実現に向けて情報を収集していたILCは、OSSTechの製品群に注目しました。同社の製品はオープンソースのソリューションとして実績が豊富だけでなく、低コストなことから、予算的にも統合ID管理製品「Unicorn ID Manager」とシングルサインオン製品「OpenAM」を同時に導入できる点が魅力でした。またILCでは当初、ディレクトリサービスにActive Directoryの採用を予定していましたが、将来的にLDAPを採用したシステムとの連携もあり得ることから、OSSTechのディレクトリサービス製品である「OpenLDAP」も併せて導入し、「Unicorn ID Manager」で統合的にIDを管理するという基本構想が固まりました。「実際の話、シングルサインオン製品については『OpenAM』に選択肢を絞り込んでいたのですが、統合ID管理製品については念のため複数のベンダーに提案をいただきました。ただ、価格面でいえば『Unicorn ID Manager』が圧倒的に優れていましたし、構築に際して『OpenAM』や『OpenLDAP』までまとめてOSSTechに支援してもらえるとという安心感が

ありました」と語るのは実際に選定作業を行ったITセンター 総合学習センターグループの加藤 隆典 氏です。

## ID管理製品の導入により、運用負担が低減 人為的なミスが減少、作業効率も向上

こうして2013年12月に構築を終え、2014年の1～2月に検証作業を実施。3月の終わりに無事カットオーバーしました。この段階で学内ポータルが「OpenAM」によるシングルサインオンに対応したため、それ以降の新しいWebシステムについてはシングルサインオンで利用できるようになりました。「検証中は、ずいぶん細かいこともOSSTechに質問したんですが、回答はスピーディかつ詳細で、その点ではずいぶん助かりました。今後はまた、既存のWebシステムについても順次シングルサインオンに切り替えていき、将来的には一部の例外を除き、すべてのサービスを同一のアカウントで利用できるかたちに持っていく方針です」（加藤氏）

そして今回のID統合により、管理・運用にかかる負担は大きく軽減しました。例えば、これまで新規アカウントの登録に1日かかっていたものが、1～2時間程度で完了するよ

うになり、さらに手作業がなくなったことで人為的なミスも減少。結果として作業の質の向上につながっています。

## シングルサインオンの本格運用はこれからユーザーの利便性向上に期待

当初はユーザーの混乱を防ぐため、シングルサインオンと従来の認証システムを並行して運用していましたが、2014年の夏休み明けから本格運用をスタートさせる予定です。ユーザーの利便性が大幅に向上することが期待されるとともに、従来の認証システムの廃止も視野に入れています。

「今後とも、学内ポータルの利便性向上やセキュリティ強化に取り組んでいくつもりですが、学内からは学術認証フェデレーション(全国の大学等の認証連携)への参加の声なども上がっていますので、そのあたりのノウハウをお持ちのOSSTechには、さらなる協力を期待しています」（小林氏）。

### 今回の導入製品

- OpenAM
- OpenLDAP
- Unicorn ID Manager